

三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成 27 年 7 月 24 日

上海デスク（上海納克名南企業管理諮詢有限公司）

你们（あなた達）は何しにニッポンへ？

日本における海外からのインバウンドビジネスチャンスを検討する際に、相手側の視点から見ると思いがけない可能性があるかも知れません。

静岡空港の对中国向け国際線路線が急増

当地で日本関連の情報を収集する際、最近よく目に付くのが、中国の航空会社による日中間の新規路線開設のニュースです。これは「爆買い」に象徴される中国人の日本観光需要の増加に対応するものがほとんどなのですが、日本国内の主要空港は発着枠の限界や着陸料の問題もあり、これまでは日本国内で存在意義が問われていた地方空港に発着するケースが増加しています。

その典型的な例が静岡空港です。国内では羽田や伊丹への路線がなく、建設計画時から賛否両論でしたが、視点を変えて中国から見ると人気観光ルートである東京や京都・大阪の間にあり箱根や富士山からも遠くないことから、インバウンド観光向けの路線就航が相次いでいます。特に今年に入り新たに中国 10 都市からの新規就航があり、静岡空港の HP より筆者が集計したところ、国内線が 4 路線で週 42 便に対し国際線は 13 路線（韓国台湾含む）で週 42 便と同数ですが、使用機材の違いにより総座席数は国際線が約 40% 上回っています。もはやある意味立派な「国際空港」です。静岡空港建設時にその存在意義や開設後の経済的負担の観点から建設に反対した県民も少なからず存在しましたが、果たしてその当時誰が現在の状況を想像出来たのでしょうか。

沖縄観光のライバルはアジア諸国のリゾート地

話は変わりますが、今年 6 月に北京にて国際旅游博覧会が開催され、筆者も「三重県海外ビジネスサポートデスク」業務の一環として日本パビリオンの一角に出展者として参加し、三重県へのインバウンド観光の PR を行いました。この博覧会には日本からは民間企業（鉄道会社や国内旅行会社・ホテルチェーンなど）のほか、地方自治体・観光協会等からの出展も多くあり、来場者の中国人に対し日本旅行の観光地として選んで頂けるよう地元の観光 PR 活動が展開されました。

通常、外国人に対する日本観光 PR は温泉・食事・伝統文化であることが多く、実は結局は各地の PR が似通ってしまう傾向になりがちなのですが、今回の博覧会場の日本ブース内で異彩を放っていたのが沖縄県の観光 PR でした。広いブース全体を青い空・青い海・白い砂浜の写真で装飾し、溢れるばかりのリゾート感です。確かに沖縄には温泉もなく、食事でも伝統的和食とは異なり、外国人が考える一般的な日本観光とは乖

離しており、昨今の日本旅行ブームを享受しているのかは疑問です。沖縄県の担当者にもお話を聞きましたが、中国人が沖縄旅行を検討する場合に比較するのはモルディブやプーケット（タイ）であり、日本旅行という概念では括られていないそうです。